

成功の妨げは自分

企業の社会環境に大変革が起きています。

新しい事業領域、新分野への指向の必要性は企業の75%に上ります。常にアンテナを出せば何か拾うはず。後は行動です。やってみなければ何も始まらない。多くの企業は地域で雇用を確保する使命を感じ、政治情勢に強い不信感を感じ

ています。

業界や業種、政治のせいにして何も始まりません。

1、景気が好況でも不況でも常に黒字の“景気創造型企業”

2、景気が好況だと黒字だが、不況だと赤字になる

“景気連動型”

3、景気が好況でも不況でも赤字で、利益を出せない“限界型企業”

この3つを現在の日本企業に当てはめると、実に「2:2:6」の割合で示せるといえます。

問題は、20年前にはこの割合が、2:6:2だったことです。

問題は「景気連動型企業がここ20年で減少し、好況不況に関係なく社会の評価を得られない企業が増えていくことです。

つまり現在の日本は、景気連動型企業と限界型企業が大多数を占めているのです。この現状について「元

言できる。

「元気がない企業」に共通する(1)景気(2)業種(3)企業規模(4)立地条件(5)大企業の存在、の5つに対する誤解と錯覚

変わろうとしない、考え続けない体質で甘えを持って

逆に言えば、上位2割の景気創造型企業は5つに挙げられるような条件があっ

気を取り戻さない限り、たとえ消費税率をどれだけ引き上げて

も景気の回復はできない」と断

ても、営業利益を出し続けている。

○戦いの最中、聞こえざる声を素直に聞き、見えないものを見、即断即行。

○修練の積み重ねの中から生まれる勘は、科学では及ばぬほどの正確さとの確さを持つている。

○成功を邪魔するのは、結局は自分自身。世間は誰れ一人として邪魔はしない。

これらの三つは松下翁語録の抜粋です。

はTVで眼は虚ろで視点が迷

い、世界の竜虎に対峙する気概自体、全く見えて来ない。顔は

でかいが、タマは小さい。

修羅場の経験もない米の道化師

これに気概なき、卑しい歴代政権の売国者によってもたらされたのです。

欧米の為替に見る円を食い物に、次は中国の食い物になるのは当然の帰結か。

米財務省の道化師、野田総理

従属国の世紀末

JALの復活の要因はリストラです。選択肢はそれしかないのか？

リストラの効果

液晶TVが隣国に敗北した要因は、リストラの結果です。金融資本の冷徹な論理が働き、欧米の流儀で社員に経営責任を取らせたのです。

希望退職は本来辞めてほしくない人材を失う。優秀な人材をゴミ扱い、リストラ技術者の報復です。

「天網恢々疎にして漏らさず」綺麗なブーメラン効果の本社危機、首を絞めた。当然の報いです。

次は野田政権リストラです？

るのでしよう。

オバマの提灯持ちが、TPPで首を差出し押切られる。

古代の鉄と火薬、現代の原潜と核は同種です。

日本は資源は人、文化と科学技術でしか地上に生き残れないと思う。

主宰国の最も「得意は戦争」です。

日本は「力は正義」の従属国です。



(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2012年11月12日 (月) NO. 277

地域から明るい未来を作ろう